

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172700649		
法人名	財団法人高山市福祉サービス公社		
事業所名	ホームきりう		
所在地	岐阜県高山市桐生町8-44		
自己評価作成日	平成22年8月4日	評価結果市町村受理日	平成22年11月10日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2172700649&amp;SCD=320">http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2172700649&amp;SCD=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成22年9月29日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

定員が6名と少ない割りに職員の配置が多いので、入居者様のペースに合わせてゆったりと生活していただいております。外部から来られた方からは家族のようだとおっしゃっていただいております。しかし、ご本人にとって長年住み慣れた家と大事なご家族に代わるものはない事は十分理解しているため、事あるごとにご家族と連絡を取り合い、職員とご家族が両輪となってご本人を支えていくことを基本に支援させていただいております。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅地にある元独身寮を利用した施設である。隣接した福祉センターや遊園地で地域の人や子どもとの交流があり、町内会に加入したことで、運営推進会議、避難訓練、その他の行事の参加者も多くなって地域に根付いたホームになっている。庭の花畑や野菜畑で職員と一緒に草取りや収穫をし、採れた野菜で調理したり、自分でできることは自分ですることを大切にしている。利用者の能力が日々の生活のなかで活かされる取り組みをして、介護度の改善にもつながっている。

## サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ゆったりと自分のペースで生活していただけることを理念に掲げており、その理念に沿ったサービスを提供するよう努めている。	月一回の全体会議において全員で理念を朗読して確認共有している。利用者が以前と変わらないゆったりとした家庭生活を続けることができるように支援をしている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	避難訓練や親睦会には近隣の方の参加をいただいて交流を深めている。また、今年8月からは町内会に編入させていただくことになっており今以上に地域の一員として日常的に交流が出来ると思っている。	町内にオープンした「いこいの家」にでかけ、町内会に加入したことで、利用者が回覧を届けに行ったり、溝掃除に参加したりと交流している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方と交流する中で、職員の入居者様への対応などを見ていただき、普通に向き合っていればいいことなどを理解していただいている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年第1回目の会議の席上、町内会長様から町内会への編入を勧めいただき実現する事になった。町内の役員様は毎年交代されるので徐々にホームの理解者が増えてきている。	会議で出た意見により町内会に加入した。回覧など相互の情報交流により理解が深まり、行事や避難訓練の参加者の増加につながった。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	直接市役所の窓口まで行って担当者に運営推進会議の案内や結果報告書を渡し、報告や相談を行うなど、日頃から協力関係を築くよう努めている。	対応に困った時、法律の解釈など行政の窓口担当者のアドバイスを受けている。担当者が来所してホームの実情を理解され、設置基準にとらわれずスプリンクラーが設置された。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないケアは職員全員が理解しており常に気を引き締めて取り組んでいる。玄関は夜間以外は施錠せず、安全の為にチャイムが鳴るようになっている。自室の施錠はしていない。	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。利用者が一人で外に出た時は、一緒に付き添っている。夜間以外は玄関の施錠をしていない。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は全体会議などで虐待について事例を踏まえて周知を行い、全ての職員は虐待が無い様に注意を払い、日々のケアに努めている。		

ホームきりう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前退居された方が利用されており、次に入居予定の方も日常生活自立支援事業を利用されるよう関係者と話し合っているなど、制度を理解し活用している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ前に利用者やご家族にホームを見学していただき、お互いが十分に納得された上で契約を結んでいただいているので、ご本人の理解を得る為に入居が遅くなることもあるが必要なことと思っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	福祉センターやホームの玄関に葉見信箱を設けいつでも苦情や意見を聞く体制を取っている。また、運営推進会議や、ご家族の面会時にいただくご意見を運営に反映させるよう努めている。	面会時の意見により、生活の中でリハビリ効果を増やす取り組みや、自分でできることを手助けせず見守るケアなどに取り組んでいる。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回開催する全体会議や随時書き込みが出来る気付きノートで職員の意見や提案をきく機会を設けている。意見が出ることに意義があると思っており、良い意見は運営に反映させている。	会議や気づきノートの職員の意見で、自分でわかりやすい排泄チェック表を、自室トイレに掲げている。夜間の排泄不安から水分摂取を控えている利用者には、不安を取り除く方法を工夫している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全体会議に出席し、職員の勤務状態を把握し、職場環境の向上に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会を平等にしており、復命の中で他の職員にも周知する場を設けている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月1回開催するグループホーム協議会飛騨支部会議で交流する機会を持ちネットワーク作りや勉強会を行っている。また隔月には飛騨支部のグループホームを相互に訪問しサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族と共にホームを見学していただき、十分に説明を行い納得していただくと共に、在宅時の状態の把握に努めることで、ご本人の安心確保と良好な関係作りに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人と共にホームを見学いただく前に、ご家族だけで訪問いただくことが多く、その時にご家族の不安や困りごと、要望などを十分にお聞きする事で関係作りに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今一番必要な支援は何かをご家族と共に考え提供しながら、徐々に見えてくる本当に必要な支援を見極め、ご本人にとって一番良いと思われる支援を提供できるよう努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれの方に得意分野があり、役割を担っていただくことで生きる喜びが生まれ、連帯感や、人を思いやる関係が徐々に築かれている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員とご家族はご本人を支える両輪との一貫した理念の下、些細なことでもご家族に相談することでホームに訪問していただく機会を設け絆が保たれる支援をしている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	どなたでも気楽にホームに寄っていただけるよう機会があるたびに声かけを行っている。また、随時の帰宅や外出などはいつでも大歓迎で対応する事で関係が途切れないよう努めている。	馴染みの美容院の利用や、行きつけの店の買い物に同行している。墓参りは家族と出かけるように支援している。行事の案内は、家族・友人・知人にも呼び掛けている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	人生経験が長い方ばかりなので、それぞれ工夫して上手く関係作りをされていて、教えられる事が多いが、時として上手く関係作りができない場合は、話題を変えたり声かけを行うなどの支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されても新しい入所先を訪問して様子を伺ったり、ご家族と話す中で必要な相談や支援に努めている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族や友人に意見をお聞きしたうえで、出来るだけ言葉掛けを行い希望や意向の把握に努めている。また、言葉で上手く表現できない方には、行動や表情、仕草で思いや意向を推し測る努力をしている。	言葉だけでなく、表情や態度からも推し量り把握に努めている。人の前では言い出せない方も、居室での安心した何気ない会話から把握するようにしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や友人、近所の方や在宅時のサービス提供者からの情報、ご本人の話などからこれまでの生活歴や暮らし方の把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活を見せていただきながら、職員同士が気付きノートやケア日誌等で情報を共有することで現状の把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1度の全体会議で個人ごとの評価を行い、3ヶ月に1度のケアプラン見直し時には可能な限りご本人やご家族とも話し合い現状に即した介護計画を作成している。	評価は毎月会議で行い、定期的な計画の見直しは家族、利用者とも話し合い現状にあったものに行っている。状態変化による見直し時は、かかりつけ医とも連携して介護計画を作っている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	シフト勤務なので情報の周知や共有には気を遣っている。ホーム独自の気付きノートや個々のケア日誌を活用する事で情報の周知や共有を図り、介護計画の見直しや実践に生かす工夫をしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の家族などの環境はそれぞれ違うので、日常生活自立支援事業の利用など必要なサービスを利用できる支援を行っている。また福祉センターの利用者との交流にも取り組んでいる。		

ホームきりう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方に運営推進会議や親睦会などに参加いただくことで、徐々にホームの理解者が増えてきて、今年8月からは町内の役員様のお誘いで町内会へ参加させていただくことになった。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診や投薬はご家族が在宅時からのかかりつけ医にお連れ下さっているが、受診時はホームでの様子や病状を口頭や書類で伝えることで、適切な医療を受けられるよう支援をしている。	利用者全員入居前からのかかりつけ医である。家族同行受診時は、書面で情報提供している。受診後の情報は、気づきノート、介護記録に記入し、職員全員が共有している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の介護職がいるので、随時気づきや情報を伝える事ができ、適切な受診や看護を受ける事が出来る。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者と相談し緊急入院サマリーを作成し、急な入院にもスムーズに治療が受けられるよう情報の共有に努めている。また、退院時は医師や看護職との話し合いの場を設けている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、重症化した場合は設備面で入居の継続が難しくなることをお話しさせていただいており、特養などへの入所申込を済ませておられる方もある。但し、受け入れ先が無い場合は無理に退去を迫る事はないということも説明し方針の共有を図っている。	設備面から重度化した場合の対応が難しいことを、入居時から説明している。本人、家族と話し合う機会を多く持つことで信頼関係を築き、個別に意向を聞いているが、受け入れ先がない場合の対応について体制が整っていない。	本人、家族と話し合うとともに、対応しうる最大の支援方法を全職員が確認、共有し、さらなる体制の向上を目指すことが期待される。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	色々な場合に備えてマニュアルを整備して、いつでも見られる場所に置いている。毎月の全体会議でも情報の共有をはかり急変や事故発生時は速やかに対応できるよう備えている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や風水害対応マニュアルを整備し職員に周知すると共に、地域の方には避難訓練に参加いただき、万一の場合に協力をいただける体制の構築に努めている。	消防署立会いのもと、近隣参加のもと実施されている。夜間を設定した訓練もある。地域の民生委員宅や近隣が緊急通報によりかけつける協力体制が築かれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介護の基本は尊厳を守ることだとの認識で、日頃からプライバシー保護や言葉かけなどにも注意を払っている。全体会議の席上でも、気になる事は議題に取り上げ常に周知している。	一人ひとりの生活歴を把握し、その人の人格を大切にされた対応を心掛けている。排泄時の失敗も個々の居室についているトイレで対応する配慮をしている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	1日の過ごし方や服装、食事などはご本人の希望に沿うよう常に言葉かけを行っているが、自己決定が難しい方には少し助言して出来るだけ自分で決められるよう支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の大まかな流れは決まっているが強制するものではないので、一人一人のペースで生活されている。その都度言葉掛けをして意向を確認しながら支援を行っている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で服を選んで着られたり、行きつけの美容院を利用するなど、その人らしいおしゃれが出来るよう支援している。季節ごとに服を入れ替えに訪問されるご家族もある。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事やお茶タイムは生活に潤いを与えるものとして楽しくなるよう工夫をしている。準備や後片付けもそれぞれの入居者様の持てる力に合わせて役割分担をしながら一緒にやっている。	その日の食材により献立を決めて、全員で下ごしらえや後片付けをしている。食器は個々に馴染みのものを使用し、席も利用者の意見を聞き決めている。苦手な調味料の時は工夫して対応している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日のメニューや水分摂取量を記録して状況を把握し、必要時はご家族や主治医に連絡をするなどの支援を行い、栄養や水分が確保できるよう努めている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	昨年は職員や入居者様、地域の皆様も参加いただいて口腔ケアの研修を行った。口腔ケアの必要性は十分認識しており、毎食後一人一人の歯の状態や力に応じた声かけや支援を行っている。		

ホームきりう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居時は紙パンツをはいておられた方が、見守りする中で今は布パンツで生活されている。常時職員と情報の共有を計り、トイレの場所が分からない方には張り紙などの工夫をしている。	個々の排泄パターンを把握してきめ細かく対応し、入居前紙パンツで排泄していた方が、布パンツでトイレ使用するまでに自立された。失敗した時も誇りを傷つけないよう心がけている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や食事で便秘予防を心がけている。毎日便秘の訴えがある方にはカレンダーをしたり、出来るだけ身体を動かす工夫をするようケアプランにも明記している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴順は一応決まってはいるが、個々の状態に合わせて臨機応変に変えている。拒否をされた方でも時間をずらしてお誘いすると入られる事もあり、入浴後は感謝の言葉をいただく事が多い。	定期的以外にも希望があれば入浴できる。気が進まない人も入浴剤など利用して入りたくなる工夫をしている。菖蒲湯、ゆず湯など季節のお湯も楽しんでもらっている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個室には洗面所やトイレ、縁側があり外には自分たちでプランターに植えた花が咲いている。個室は内側から鍵を掛けることも出来、各々のペースに合わせて安心して過ごすことができる。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の状況を良く知る常勤の看護師が薬を預かって管理しているが、他の職員へもその都度周知をしており、職員も薬について確認し理解をしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人が役割を担うことで生活に張りが出ると思っているので、それぞれの持てる力に合わせて役割を担っていただいている。また、歌や貼り絵、散歩やゲームなどを楽しむことで気分転換等の支援をしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	高齢化に伴い長い散歩は難しくなってきたが、裏庭でお茶を楽しんだり花の水遣り、野菜の収穫などで戸外へ出る工夫をしている。また、ご家族との外出は何物にも変えられない楽しみと思うので、ご家族とは頻りに連絡を取り合っている。	利用者の希望により、買い物、外食などに全員で出かけている。庭の花壇、野菜畑で戸外の活動をしたり、お茶の時間を楽しんでいる。家族と連絡を取り、温泉、旅行、魚釣りなどに出かけている。	



ホームきりう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は職員がご家族からお預りして出納帳に記録しているが、ご家族の了解のもと小額のお金を自分で管理されている方もあり、福祉センターの公衆電話から電話を掛けておられる。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分の言葉で文字を書く事は非常に大事な事と思っているのできりうへにはご家族あてに一言書いていただいたり、年賀状も書かれる支援している。電話をしたい時は公衆電話で掛けられる方もある。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	市街地ではあるが広い敷地の中に南向きに建てられたホームなので不快や混乱を招くような刺激は殆ど感じない。個室の窓からはプランターに植えた花や児童遊園が見る事が出来、居心地良く過ごせる工夫がされている。	居間は、風通し良くする天窓があり、台所の調理の音や匂いも楽しめる部屋である。玄関際に置かれた椅子でお互いにくつろいで窓外の景色や花を楽しんでいる。壁には手作りの季節の貼り絵や行事の写真を飾っている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	少し狭いがホーム入口付近にテーブルと椅子を置き、花を飾ることで、気のあった利用者同士が過ごせる居場所作りの工夫を行った。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個室はご本人に自由に使っていただいているので、嫁入り道具の箆笄や鏡台などを持ち込んで、できるだけ在宅時の雰囲気損なわない工夫をして居心地よく生活していただけのようにしている。	トイレ、洗面所付の居室に、使い慣れたたんすや鏡台が置かれ、家族の写真、手作りの作品が飾られて、その人らしい部屋になっている。ベッド、布団も馴染みのものを使い安心して過ごせる様になっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な場所に手摺りを設けたり、トイレに張り紙をする事で各自が出来るだけ安全に自立した生活が送れる様工夫している。		